（音楽科主！ム）が出場することになっていたので、赴任した日から本矢君と練習を始めました。この チーム は五年生の頃からよく練習していて上手な児童が多く、その中でも投手の扶開若（当時の佐伯高等女学校長扶開俊雄氏の御子息）は名投手でした。五月に大分市で大分新聞社（現在の大分合同新聞社）主催で東九州少年野球大会が開催され、我が B 組チーム は運よく優勝し、来る八月に宝塚で行われる全国大会に東九州代表として出場することになりました。それから六月、七月と暑さにめげず毎日毎日猛練習を重ねました。阿南卓先生が毎日お出でになり指導して下さいました。高妻校長をはじめ皆んなの先生方の激励に選手たちは一生懸命に練習して、五月の頃とは見違える程ど上達しました。よく先生チーム と練習試合をしましたが、その時此度高妻校長が投手と買って出ていました。（実は投手にしないと気嫌が悪かったのです）。私は毎日の練習で急に疲労（顔面神経まひ）にかかり、とうとう大会には選手に付添って行けなくなって、高妻校長自ら選手と引率し、阿南先生が監督となって遠征しましたが、武運拙なく第一戦で敗退してしまいました。

十五年度の新学期を迎え職員一同張切っていましたが、六月高妻校長が急に退職して、北海部郡から佐藤喜一校長を迎えました。私はそれから昭和三年三月まで佐藤校長の下に勤務して大島小学校へ転任しました。

（終）

（28ページ下段より（つづき））

春霞となるかもしれぬ。そしたら当分、雨の城山を訪れる人もいないだろうと思ったりしている。

（住所　宮崎県日向市美々津町）

（7ページ下段より（つづく））

先述した弥生町小倉の慈崖塔造立年次、康永四年は北朝年号で、この辺りが北朝色豊かな頃のものである。これらは南北朝争乱の消長を物語り、この平和な佐伯地方もかつて争乱の渦中にあったことを示している。南朝年号といい、北朝年号と謂う、当時の争乱の名残りを留め、更に権力の推移を物語る貴重なものであろうか。（終）

（住所　南海部郡弥生町大字江良）

朝報。――三の丸の御殿、移築への動きが……。

かねてからその取壊しが決定的であった三の丸の御殿が、市内某地区の切なる要望により、船頭町河畔の市有埋立地に、移築・保存の動きを見せている。寄びにたえない。

願わくば今の御殿の姿を、出来るだけそのままに移して、後世にのこされるように。

研究

佐伯の港はどんな働きをしているか

――主として水揚の流通について――

大分県立佐伯豊南高等学校
教諭・同校郷土誌クラブ顧問
本会会員　市野瀬　仁

第二章　佐伯港

第二節　その社会的環境（つづき）

三　佐伯港における船舶の動向

重要港湾の指定をうけた佐伯港は、入国管理局佐伯出張所の機関を残すのみで、一応完備している。この項では波静かな佐伯港に浮かぶ船舶を、統計資料をもとにして眺めてみよう。

勤務上港を訪れるのは日曜日が多いので、ウイークデーの風景を見ることが少く、活況を呈している映像は多くない。しかし守後沖に外国から帰港した木材船が碇泊し、海上投下作業のため人影が動いたり、小さな戎丸船が霞ヶ浦方面にかすかな音をたてて進行している光景は、しばしば見たことがある。二平舎板K、Kの材木場である百枝方面から佐伯港の中心部を遠望すると、たいてい一隻や二隻の大型船が造船所に並んでいる。またカメラをむけて焦点を合わせていると、左方から進行してきたセメント運送船の雄姿が横切ることもある。島港の背後にある鈔見山に立って見下すと、旅客船、漁船、給油船等の小船が、岸壁に舳先を向けてゆれているのはのどかな風景である。県営上屋付近には大きな砂の山が二つほどでき、砂利運搬船の黒船が休息している姿も見られる。日曜日といっても二平舎板K、Kや興くべくの煙突から出る煙は、海面がかすかにゆれているように絶えたことは少ない。でも日曜日の佐伯港はさすがに静かだ。一日千隻のラッシュで交通マヒとする関門海峡は世界一と云われているほどで、「関門」の名に恥じない航行のはげしさで、三十二人の水先案内が待機していても危険だということで（昭和新聞四五・二・三）ものがたい話ではない。

（一）船舶の種類

佐伯港ではいまゆとこの船舶のラッシュで交通規制にたどく神経を使うほどではないらしいが、大小船舶の数と種類をあげてみると、案外多いことに気がつく。

貨物船、旅客船、漁船、戎航船、給水船、給油船、海上保安船、観光船、釣舟等。もっとも冬季の観光船は使用を変える。必要や階級別に見る場合は、汽船、機帆船、帆船等に分けなくてはならないし、内航船、外航船、定期船、不定期船等はもちろんの別け方である。

佐伯市役所の総計課から昭和四十四年度の佐伯港入港船舶の動向調査を見せてもらったけれども、公表を禁止されたので詳細の数字は明記できないのが残念である。然し次に述べるような統計資料を税関からいただいたので、両者を綜合してみると大略の全貌はつかめた。

佐伯港に入港する外船舶は、年間約二百五十隻、内船舶は約二千隻となり、トン数において一番多いのは、外航船で千トン以上六千トンがほぼ八十%で、内航船でほぼ五百トン未満が五十%以上、五百トン以上千トン未満が二十五%、六千トン未満が十%をこしている。港の性格を知るには、隻数や階級的トン数もさることながら、船舶の種類や内容を分析しなくてはほんとうの正確なことは分からないと思う。

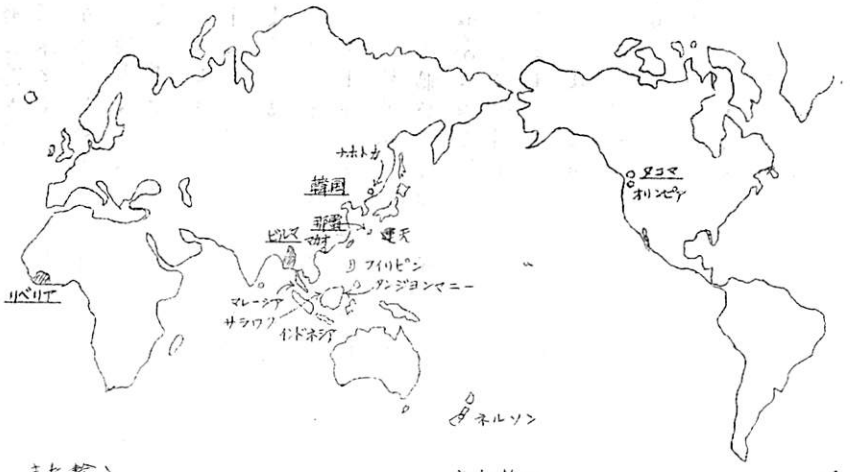
イ．外航船

佐伯税関支署の資料を借りて、佐伯港に出入りする外航船の行方を追求してみると、まず仕立向先は大半が日本海、ボルネオ海に上記の貿易船が雄飛している。

輸出額のトップは建造船であり、年間三度も出し、金額にして約二十四億というから、佐伯市の予算十四億と比べてみるとその大きさがわかる。

輸入のトップは木材の七十六億、続いてウッドチップ三億となり、輸出額二十六億、輸入額八十億、合計百六

億の貿易高である。このように、佐伯港は鋼材と木材、石炭石の原料を扱う港の性格がうかがえる。



主な輸入

マレーシア（チップ）	ナホトカ（木材）
インドネシア（船）	マカオ（　）
サラワク（チップ）	オリンピア（木材）
ダンジョンマニー（木材）	
フィリピン（木材）	
ネルソン（木材）	
運天（木材）	

主な輸入

タコマ（	
韓国（船）	
取面（合板）	
ビルマ（船）	
リベリア（船）	

（注）リベリアは船籍国，税金の関係で船籍だけをこの国においている会社がある。

口．内航船

内航船での移出入先を見ると次の通りとなる。

移出　水産品——宇和島

原　木——松坂、尾鷲、和歌山、御坊（和歌山）

田辺（和歌山）、大阪、堺、洲本（兵庫）、坂出、高知、三津、八幡浜、宇和島、長崎、小倉、岩国、江津（島根）、伊予三島、川之江（愛媛）

薪　炭——大阪

セメント——大阪、川崎、田子浦（静岡）、高砂、名古屋、岡山、廣島、松山、高砂（兵庫）、和歌山、松江、若松、鹿児島、

紙・パルプ——西條、

非金属鉱物——大阪、

機　械——八戸、

食料工業品——松山、神戸、

木製品——神戸、晴海（東京）、大阪、因島（広島）

くずもの——岡山、高松

移入

原　木——西ノ表（鹿児島）

木の他　材——田後（鹿児島）

石灰石——津久見、小大下（愛媛）

砂利、砂利石、砂——津久見、

鉄　鋼——福山（広島）

その他金属鉱——佐賀関、四阪島、直島（香川）

非金属鉱物——宮野浦、四浦、宇部、坂出、西大寺（岡山）

機械類——大阪

重　油——徳山、大分、門司、菊間（愛媛）、水島（岡山）

食料工業品——大阪、尾道、

以上の移出入先と見ると、木材関係は大阪以西で、セメントは北は北海道から南は沖縄に至るまでの太平洋岸に及び、瀬戸内や臨海都市へ運ばれていることが分る。

また外航、内航船共に数多くの船舶が、玄関門に取引していると共に、四国の南北と連絡とするために二方面に出港することや、東南アジア方面に向うために佐伯が好位置に在ることが今更ながら理解できる。

なお次にかゝげる取扱品目実績や、内航運送業実績を合せて見ると、その動向が一層明瞭となってくる。

（第一表）

内航運送取扱実績

5.41　九州海運局佐伯出張所管内

	t
木材	160.592
紙	37.492
セメント	54.068
石灰石	957.993
鉱石	215.466
鋼材	1.726
薪炭	48.592
肥料	41.585
硅砂	76.685
砂利	152.359
ベニヤ板	1.050
石炭	62.835
分蜜糖	13.491
石油製品	5.213

（調査　豊南高二年三組高橋）

（第二表）

内航船舶運送取扱実績表

5.42　（九州海運局佐伯出張所管内）

運送業者＼月	2月	6月	12月
	t	t	t
佐伯船運	4.215	2.130	5.052
大分海陸	934	—	—
日通	6.594	8.084	16.644
松井回漕店	1.132	1.150	1.400
村本組	101.590	151.838	138.652
堀川回漕店	1.073	540	700
興国運送	44.502	35.431	44.417

（豊南高2H3　日高信子調）

（本項おわり）

報告

徳川秘宝展の見学と霊山登山

会員　小野英治

去る四月十二日（日曜日）、この日は大分市で開催中の徳川美術館秘宝展の最終日であり、かつ、大分県地方史研究会と大分探勝アルコウ会の主催する〝講演（霊山の歴史と文化）と登山（霊山）〟の当日でもあったから、愛妻をともなって単独参加をすることにした。

徳川美術展の方は、すでに先週佐伯史談会では見学を実施していたが、当日私は家事の都合から、心ならずも参加出来なかったのである。

最終日で日曜日ともあって、徳川美術展は大変な混雑ぶりで、コーナーが一番人気があり、一かたまりに集中して動かない。武具、調度品、茶器、衣類、書画等珍らしいものが多い。七名家（徳川一門中の大々名、尾張徳川家）の道具を知る上で参考になる点が多い。特に鑑賞する上で、色紙に書いてある説明（解説）がよい。然るにいえば一部でなく、展示品の全部に、解説文を附せば、より興味深く鑑賞出来たのではなかったろうか。又尾張徳川家と云えば、名古屋城に金のシャチホコであろう。この資料が欲しいところであった。そして有名な源氏物語絵巻も、この不満を解消するためには、やはり名古屋へ行かねばならぬということであろう。

午後霊山へ向こう。霊山は海抜五九六米、大分市の南東部に位するなだらかな山である。現在大分市が森林公園として開発中で、自動車道も山の殆ど七・八合目まで、霊山寺まで完成しており、遊歩道も完備していて、ここ十年の眺望は素晴らしい。この日は花曇りとなってはま